

特定非営利活動法人 A SEED JAPAN 通常総会議事録（ウェブサイト掲載用）

1. 開催日時 2024年6月23日（日） 14時00分～16時30分

2. 開催場所 事務所&オンライン（Zoom利用）

3. 出席状況 正会員総数 70名 有効数 42名
（説明：出席 10名、書面表決 15名、委任 17名）

以下、敬称略

出席役員：濱田恒太郎、鈴嶋克太、大坂紫、大村哲史、鈴木真悠子、三本裕子、矢口拓也
（会場参加）、山田遼（オンライン参加）

欠席役員：なし

出席正会員：趙子鈺（会場）、片山新悟（オンライン参加）、豊田さら（同左）

出席準会員：なし

マンスリーサポーター（会場参加）：富田一 ※オブザーバー参加

4. 議決権総数 42個 有効議決数 42個（うち出席10個、書面表決 15個、委任17個）
定刻、司会より、議長として濱田恒太郎を指名することの提案があり、これを諮ったところ
全員異議なく承認した。その後、定足数の確認を行った。有効出席数及び有効議決権数に
ついて確認をした。

5. 議事録署名人を選任

議長より、議事録署名人として、鈴嶋克太と大坂紫の2名を指名したいとの提案があり、こ
れを諮ったところ全員異議なく承認され、直ちに議案の審議に入った。

6. 議 事

第1号議案 議決事項1：2023年度事業報告

【議決】

◆承認 42個（うち出席10個、書面表決 15個、委任17個）、反対0個、棄権0個

【担当者からの補足説明】

・特になし

【質疑応答・意見交換】

・質問なし。

・片山：一時期より大分前向きに進んでいる印象を受けたのでこれからも頑張ってもらいたい。

第2号議案 議決事項2：2023年度決算

【議決】

◆承認42個（うち出席10個、書面表決 15個、委任17個）、反対0個、棄権0個

会計担当より、2023年度決算について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

・特になし

【質疑応答・意見交換】

・質問なし

※議決の前に、議決事項1及び2について、合わせて質問が無いか確認を行った。

7. 報告

報告事項1：2024年度事業計画

プロジェクト担当理事より2024年度活動計画について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

資料参照

【意見交換】

・特になし

報告事項2：2024年度予算報告

2024年度予算について説明を行った。

【担当者からの補足説明】

資料参照

【質疑応答・意見交換】

報告事項1及び2について、質疑応答・意見交換を行った。また、3か年計画の総括についても報告を行った。

（報告事項1：2024年度事業計画について）

・豊田：サステナカフェは、活動メンバーの興味あることやシェアしたいことを共有する場として、ディスカッションができればいいなと思ってやっている。メンバー内のナレッジの共有の時間を作るのが目的。これからESGウォッチプロジェクトがやろうとしていることに対して、新しいアイデアを作るきっかけになるのではないかと、スコアリングについては別の視点を取り入れてはどうかと、協議中だが考えている。去年は資産運用会社の目標設定などをスコアリングしたが、視点を変えたり、株主提案に対する賛否の状況を去年と比較したりなど、プラスアルファの要素を入れていけたらいいと思っている。

・鈴木：サステナカフェについては、今、ASJの活動体としてESGウォッチプロジェクトしかないの、新しくオリエンに参加した人が本当に興味のあることに取り組めていないかもしれない。新しい人たちのやりたいことを実現したり、思いを共有する場としてサステナカフェを位置付けていきたい。実施して、新しい企画やアイデアを出していけたらいいなと思う。

・片山：サステナビリティカフェは大変いいと思う。以前からASJに参加している人間としては、昔のアクセス部の様な位置づけを想像した。その際のいい点や反省点などを活かして活動してもらえたらいいと思った。昨年度は最低3つの運用会社から対話をしたというのがあった。今年度は目標は倍増と理解したが、増やしていく秘訣などはあるか聞きたい。

→鈴木：施策として、今年度は、昨年度がスコアリングの初回だったので、継続していけば増えていくのではないかと。アクションガイドを使った啓発活動の実施や、アクションガイドを利用したミニセミナーを他の若者環境団体とも協力してできるのではないかと。他の若者団体と協力していきたい。スコアリングなどの調査結果を、他の環境団体で同じような問題意識で取り組んでいるところと連名するようにしたい。ASJだけでなく、いろんな団体が監視・注目しているということを示せば、対話してくれる会社が増えるのではないかと。昨年

度のスコアリングもJACSESとの連名で実施したのはそういう意図がある。その方が反応がいいとOB田辺さんからの提案を受けて行った経緯がある。また、ウェブサイト上で活動内容、勉強会をしたことや専門家から意見を受けてやっていることなど、スコアリングのプロセス・活動自体をウェブサイトで見せていくことが、団体のブランディング・信頼感向上になり、結果として、回答したり対話に応じてもらえる会社が増えるのではないかと思います。

・片山：具体的なアドバイスができるわけではないが、「これは無視したらやばいぞ」と相手に思ってもらえればいいと思います。応援しています。

・趙：自分はESGウォッチプロジェクトのメンバー。資産運用会社のヒアリングで効果的に対話するために、どのようにもっと多くの人に賛同してもらえるか。会社向けの勉強会もいいやり方ではないか。現時点では実現性はあるのではないか。もう少し行けば、会社に限らず、学校や市民団体、あらゆる組織内で勉強会をできたら、我々の活動を知ってもらうことができると思う。

→濱田：補足すると、彼の職場では2週間に一度、昼休みに勉強会を開催している。その場で、ESGウォッチプロジェクトのことを紹介する機会を準備しようとして用意を進めている。

・矢口：昨年度の反省点で、プレスリリースしたけどメディアに載らなかったのはなぜかを踏まえ、今年度はその目標を達成できるように、どうするか。細かいところの段取りも考えてやっていった方がいいのかなと思います。企業側にとっては、名の通ったところからの質問だと回答しやすいのでJACSESと一緒にやるのは非常にいいことだと思う。今までのことを踏まえ、今年度や次の年に生かせるように活動してほしい。

・大村：エコ貯金プロジェクト時代から、大きく変わっていることが2つある。1つは、サステナブルファイナンスがニッチではなくなったこと。企業や運用会社も評価機関やNGOなどに対して免疫ができています。だからこそ、若者なりのアプローチ、また今の時代に合わせたNGOなりのアプローチを考えなくてはいけなくなってきている。そしてもうひとつは、企業や金融機関に対する姿勢について。例えば公開質問状は、かつては理想とギャップがある場合にダイベストメント（金融資産の撤退）を呼びかける、いわば・批判型のアプローチが中心だったが、最近はエンゲージメント、建設的な対話を呼びかける動きも増えている。例えば今回の資産運用会社への調査についても、先方が自分たちの活動がしっかりしていることをアピールするためにフィードバックや対話に応じてくれたように感じる。やはり今の時代には今の時代なりのアプローチがあるのではないか。

・片山：若者の視点は大事な所以对話をしてくれたらなと思う。

・大村：変わってきていることがある一方で、昔ながらの有識者の助言ももちろん有益と感じているので、ケースに応じて引き続き連携を意識したい。

・鈴嶋：どうやってメディア掲載を成し遂げるか。2つ大事かと思っている。スコアリングの調査項目に、昨年の項目に加えて、今年度も新しい要素を加える。昨年と同じものを調査しても会社によっては何も変わらないし、対話の必要性も理解されない。今年度らしさを付け加える必要がある。対話に応じてくれた会社の中には、若者とのコミュニケーションは大事なので大変有意義だという意見もあったし、水素・アンモニア発電の質問も入れたことに関して、むしろ向こうから「教えてほしい」という発言もあった。特定の問題に対して、「若者環境団体はどう思っているのか？」ということで対話したいということもあった。若者らしさ、ユニークさ、今年らしさを入れることが大事である。例えば、最近はトヨタ自動車と日本製鉄に株主提案が出されていて、注目されている。こうした、排出量が多い企業に出された株主提案について、資産運用会社が賛成しているか反対しているかを調査するだけでも目新しい。他の誰もやっていないことだと思うので、それをやるのは手ではないだろうか。また、スコアリング結果を出す時期が大事である。昨年は3月4日にドラフトを出して、3月31日にプレスリリース、とぎりぎりだった。世間的なトレンドと合わせて、例えばCOP（国連気候変動枠組条約締約国会議）の時期に合わせるとか、その期間中にドラフト

を発表して、11月に最終結果を発表するなど、時期も大事かなと思う。今年はタイムリーな発信ができるように頑張っていきたい。

（報告事項2：全体予算について）
特になし

報告事項3：2024年度役員について

2024年度役員（濱田、鈴嶋、大坂、大村、鈴木、三本、矢口、山田）を紹介した後、理事会で承認された2024年度の役員より、担当分野および意思の表明を行った。

【参加者からのコメント】

- ・趙：自分のESGの知識や経験を活かしたいと思ったことをきっかけとして、ASJの存在を知って1月から参加した。勉強会でもっと我々の存在を多くの人に知ってもらい、もっと魅力的な活動に取り組んでいきたい。
- ・富田：長時間ありがとうございます。今年度も会計業務を中心にサポートしていきます。
- ・豊田：活動を振り返った。自分も関わってから金融に興味を持ったり知識が広がる機会が得られた。これから頑張っていきたい。
- ・片山：よい雰囲気活動しているのが伝わってきた。いい刺激をもらいました。野心的な目標もありますが、これからも頑張ってください。

以上の報告をもって、議長は16時30分閉会を宣言した。

以上